DOCOMO Today

「こだわる」ということ



R&D総務部 部長

入江 俊郎

もう、随分前のことで詳細には覚えていないが、何年か前にTVで「現代の名工」というようなドキュメンタリー番組を見た覚えがある。

陶器や蒔絵,刀剣などの製作を芸術の域にまで昇華させた 名工たちのインタビューを中心としたものだったと記憶している。作品の素晴らしさに焦点が当てられていたわけではなく製作者たちの生立ち、信条、ものを作ることに対する「こだわり」がメインテーマだった。

さして関心はなかったが、インタビューが始まると名工たちの話の中にポツポツと興味を惹かれるものが出てきた。例えば、多くの人たちが、自ら望んでその職業に就いたわけではないという事実はその1つであり、やや意外な感じを受けた。

大半の人がかなりの年配だったので、時代背景からも年少の頃に家業を継いだり、技の伝統を守るために他家に養子にいったり、またとりあえず生活の糧となるような職業として、やむを得ず修行を始めたということのようである.

好むと好まざるにかかわらず始まった仕事に、どのように向き合ったかということについても、驚くほど似通った言葉で答えていた。曰く「最初は嫌で嫌で逃げ出したかった」「とにかくやるしかなかった」「自分にはこの道しかないと思い、これだと思うことを信じてやった」「何も特別なことをしたわけではなかった。長く続けることができて運がよかっただけ」といった言葉が繰り返され、気負いも衒いもなく

淡々と答える顔が印象的だった.

作家の藤沢周平氏の言葉を借りれば『特別自分や自分の仕事を誇ることもなく、選んだ仕事を大事にして黙々と生きてきただけである。(中略) その生き方を貫き、貫いたことで何かを得るのだ。人生を肯定的に受け入れ、それと向き合って時に妥協し、時に真っ向から対決しながら、その厳しさをしのいで来たから、こういういい顔が出来上がったのである。』ということだろうし、これまでの日本の社会はいたるところで、こういった名工たちが存在し支えてきたのだと思った。

仕事を進めるうえでは、その大小にかかわらず「本来どうすべきか?」「どうしたいのか?」と、こだわり、考えることは結局のところ、その仕事の「本質」を炙り出すことに繋がる。さらに本質が自分なりに少し見えてくると次に進むための判断がイメージできるようになる。そこまでくれば、後はチームを信頼して実行するだけだが、その場面では「こだわる」だけではなく「バランス」というスパイスが時として味付けを変えるということを付け加えたい。

今年7月、ドコモは創立20周年というお客様への感謝を再 認識する節目の年となる。

R&Dセンタもドコモの研究開発拠点として15回目の夏を迎え、展示ルーム「WHARF」も開設以来、毎年約5,000名のお客様に見学いただき、昨年12月には累計10万人を数えるまでになった。

昨年は横須賀市をはじめ、近隣自治体との連携、また「アウトオブキッザニア」において、子どもたちの職業体験への協力など、より多くの皆さんに「WHARF」を体験してもらうことができた。

今後も多くの人々にドコモの研究開発成果や新サービスの発信といった取組みを通じ、R&Dセンタのプレゼンス向上に少しでも貢献していければと考えている。

折しも、2012年度は「変革とチャレンジ」の最終年.

「中期ビジョン 2015 ~スマートライフの実現に向けて~」の実現を目指し、モバイルサービスの進化と総合サービス企業に向け、価値創造の取組みを加速させる年であり、加えてR&Dセンタを持つ強みを活かして、R&Dセンタ発のサービスを生み出すこと、進化させることに大きな期待が寄せられている

私たちR&D総務部は、R&Dセンタの潤滑油として「安心・安全」と「心のあるコミュニケーション」を提供し続けることが、今後の「先進技術の研究」と「魅力ある新サービスの開発」へのサポートとなることと信じ、「こだわり」と「バランス」をもって着実に実行していこうと思う。